

洪水ハザードマップ展

頻発する水害に対して防災を改めて意識するため、近隣市町村の洪水ハザードマップを展示しました。

近年、集中豪雨等による水害が頻発しており、短時間で河川が増水したり、堤防が決壊して甚大な被害が発生する事例も増えてきています。

そこで、国土交通省及び都道府県では、想定し得る最大規模の降雨により河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域を**洪水浸水想定区域**として指定し、指定の区域及び浸水した場合に想定される水深、浸水継続時間を洪水浸水想定区域図として公表しています。

市町村において、この洪水浸水想定区域図に洪水予報等の伝達方法、避難場所その他洪水時の円滑かつ迅速な避難の確保を図るために必要な事項等を記載したものが**洪水ハザードマップ**です。

ハザードマップからわかること

- 浸水のエリア
- 浸水の深さ
- 家屋倒壊等氾濫想定区域
- 避難場所
- 洪水時危険箇所

展示期間
令和6年6月1日(土)
～9月1日(日)



期間：令和6年6月1日(土)～9月1日(日)
会場：信濃川大河津資料館2F展示スペース
主催：信濃川河川事務所



近年の水害の特徴や被害の様子、信濃川や大河津分水が氾濫した場合の洪水ハザードマップなどを紹介しました。



ハザードマップとして紹介した市町村は信濃川中流・下流域の8市町村です。



各市町村で配布されている冊子も展示。ハザードマップの他、地域の防災情報や避難の心得なども掲載されています。



新潟地方気象台よりお借りした、降雨量を測定する「転倒まず型雨量計」の模型も展示しました。

来場者の声



自分の住んでいない地域のハザードマップはあまり見る機会がなかったので、いつも遊びに行く施設が思ったより浸水することを知って驚きました。とても勉強になりました。